

インターバンクの声（2018年1月4日）

2018年最初の外国為替市場は、1/2のロンドン市場の朝方から動きが出始め、円相場も東京勢が不在で動きの少なかったアジア市場での112円台後半から前半へと円買い・ドル売りが進んだ。年始で商いが薄い中でのポジション調整の動きが中心のようだったが、やはり米金利の低下の影響が大きかったようだ。12月中旬にも112円割れ目前まで下げた後は反発に転じているが、今回も昨夜発表された12月の米ISM製造業景況指数や11月の米建設支出が市場予想を上回ったことなどがきっかけとなって112円台半ばまで戻している。その後も12月のFOMC議事要旨に大型減税による景気押し上げ効果が見込まれていることから、複数の委員会メンバーが利上げの継続が妥当と指摘していることもわかって、円のじり安が続いている。北朝鮮が韓国との直接の連絡チャンネルを復活させて緊張緩和の兆しが見えてきたようだが、一方では新たなICBMの発射実施によって急に円買いになる可能性もあることから、当面はポジションを膨らませないほうが賢明だろう。

※「インターバンクの声」は2018/1/5(金)をもって廃刊となります。
長らくのご愛読ありがとうございました。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。